

## 刑法 出題の意図

### 問題1

刑法総論に関する重要な概念のごく基礎的な理解を問うものである。事例を設定させるのは、適切な事例設定は正しい知識の裏打ちを測るために有用だからである。

(1)は、現行刑法の全ての解釈の指針となる刑法の役割についての理解に関する根本的な価値観の対立を素描することを求めている。人間の行動選択に関する意思自由を肯定するかどうかを軸に刑罰の「正しい在り方」が両見解からどのように主張されているかが理解できているかが問われている。

(2)は、刑法37条緊急避難の趣旨が適切に理解できているか、同条の要件に関する基本的な知識が備わっているかが問われる。

### 問題2

名誉毀損罪における公共の利害に関する事実の意義および真実性の錯誤という刑法各論上の典型論点を問う事例問題である。前者については社会的に大きな影響力を有する人間に関して私的な事項であっても公共の利害に関する事実たりうることを判例は認めているが、それに関し名誉毀損罪および公共の利害に関する場合の特例の趣旨を踏まえた適切な評価がなされているか、後者については真実性の錯誤の場合にどのような理論構成により行為者の罪責を否定するか（あるいはしないか）に関する見解の対立を踏まえて自らの態度を決定し、それに沿って適切に当てはめができるかが問われる。